

東大寺二月堂声明(Ⅷ)

(法華懺法、大咒願)

牧 野 英 三

(音楽教室)

I ま え が き

東大寺二月堂修二会の六時、並びに授戒、食堂作法、大導師の祈り、初夜、後夜のはじめの「読経」等については本学紀要13巻～19巻(1965年～1970年)等に既に発表した¹⁾が、これら以外の声明の数は更に夥しい。毎日となえられる神明帳、5日、12日に読みあげる過去帳、新入(はじめて参籠する練行衆)が3日(塔頭では初夜、末寺は後夜)にとなえる称揚等はこれらの中でも重要な位置を占めている。しかし各々が完結するには膨大な量となるため、この度は計画を変更し、比較的小規模な法華懺法に焦点をあて、更に未検討の初夜の大咒願をこれに加えた。なお後夜の大咒願については先年「日本・東洋音楽論考」に、又法華懺法のあと引き続きとなえる錫杖、普賢讃は本学紀要第14巻に掲載してある。前記の称揚、神明帳、過去帳等については状況の許す限り早い機会に発表する積りである。

II 法華懺法、大咒願について

1 法華懺法 法華懺法は上七日では1日から4日まで、下七日では8日から11日まで計8回半夜にひきつづき礼堂で行われる。半夜が終ると諸衆は礼堂西側の畳の上に内陣に対して正座する。この時頭は五体板の北端近く燈明の下に位置する。鈴を合図に懺法に入るが譜「15～16」の和上がとなえる 聖主天中天 迦陵頻伽声 哀愍衆生者 我等今敬礼が終ると当日割当てられた3名を残し、他の衆は礼堂を退出して休憩に入るか、他の役割につく。この3名は四職(和上、大導師、咒師、堂司)と権処世界、処世界を除く5名の中から割りあてられる。すなわち北衆之一、北(南)衆之二、中灯の中3名がこれを受けもつ。更にその中の1名が頭になる。なお法華懺法のない5日から7日、12日から14日までの計6回にわたるこの時間は「走り」の行におきかえられるが、行法全般から眺めて心憎いばかりの演出である。

観音悔過、宝号、五体投地、懺悔、大導師の祈り等すべて本尊への讃仰、祈願、罪障悔過につきる訳であるが、法華懺法も又法華経を通じての悔過に外ならない。なお懺法のはじまりから普賢讃に至るまで錫杖、鈴が他の場合に較べると豊富に使用される。

2 大咒願 咒願は各時の観音悔過の直前大導師によってとなえられる。大咒願は初夜、後夜にとなえ392文字にのぼる。小咒願は日中、日没、半夜、晨朝にとなえるが、詞の内容は同じで16文

字の短いものであるが節廻しは夫々異なる。初夜、後夜兩時のものはその内容は同じであるが旋律の動きは全く異り、所要時間も初夜で約10分、後夜で約4分である。初夜の莊重を極める唱え方に対し、後夜の軽快にしてリズムカルな感じは夫々の時の「重さ」からみて極めて自然の流れのように思える。ここにおいて大導師が時の行法のよってきたる意義を宣する訳である。

Ⅲ 詞

1. 法華懺法

（一）心敬礼 一切常住仏 （一）心敬礼 一切常住法 （一）心敬礼 一切常住僧 是諸衆等人各跏趺嚴持香花如法供養願此香華雲遍滿十方界供養一切仏經法併菩薩聲聞緣覺衆及一切天仙受此香華雲以為光明台広於無邊界受用作仏事供養已礼三宝唯願我……省略……如經所説。敬礼常住三宝 聖主天中天 迦陵頻迦声 哀愍衆生者 我等今敬礼

（一）心敬礼 本師釈迦牟尼仏 （一）心敬礼 過去多宝仏 （一）心敬礼 十方分身尺迦牟尼仏 （一）心敬礼 東方善徳仏尽東方法界一切諸仏 （一）心敬礼 東南方無憂徳仏尽東南方法界一切諸仏 （一）心敬礼 南方梅檀徳仏尽南方法界一切諸仏 （一）心敬礼 西南方宝施仏尽西南方法界一切諸仏 （一）心敬礼 西方無量明仏尽西方法界一切諸仏 （一）心敬礼 西北方華徳仏尽北方法界一切諸仏 （一）心敬礼 北方相徳尽北方法界一切諸仏 （一）心敬礼 東北方三乗行仏尽東北方方法界一切諸仏 （一）心敬礼 上方広衆徳仏尽上方法界一切諸仏 （一）心敬礼 下方明徳仏尽下方法界一切諸仏 （一）心敬礼 往古来今三世諸仏七仏世尊賢劫千仏 （一）心敬礼 法華經中過去二万億日月灯明仏大通智勝仏十六王子仏等一切過去諸仏 （一）心敬礼 過去二万億威音王仏二千億雲自在灯王仏 （一）心敬礼 過去月日浄明徳仏雲雷音宿王華智仏等一切諸仏 （一）心敬礼 法華經中現在浄華宿王智仏宝威徳上王仏等一切現在諸仏 （一）心敬礼 法華經中未来華光仏具足千万光相庄嚴仏等一切未来諸仏 （一）心敬礼 十方世界舍利尊像支提妙塔多宝如来全身宝塔 （一）心敬礼 大乘妙法蓮華經十方一切尊經十二部經眞浄法宝 （一）心敬礼 文殊師利菩薩弥勒菩薩藥王菩薩藥上菩薩觀世音菩薩無尽意菩薩 花徳菩薩常精進菩薩得大勢菩薩大衆説菩薩智積菩薩宿王花菩薩持地菩薩勇施菩薩摩訶薩 （一）心敬礼 法華經中下方土行等無量無辺阿僧祇菩薩摩訶薩 （一）心敬礼 十方一切諸尊大権菩薩声聞縁覺得道賢聖僧 （一）心敬礼 法華經中一切聖凡衆 （一）心敬礼 普賢菩薩摩訶薩為法界衆生断除三障歸命礼懺悔 至心懺悔…省略……已礼三宝 第二第三我弟子至心勸請已礼三宝 我弟至心皆随喜已礼三宝 我弟至心廻向已礼三宝 我弟至心修行十地証常樂 発願已礼三宝

南無十方仏 南無十方法 南無十方僧 南無釈迦牟尼仏 南無多宝仏 南無十方分身 釈迦牟尼仏 南無妙法蓮華經 南無文殊師利菩薩 南無普賢菩薩 妙法蓮華經安樂行品……省略……

南無十法仏 仏南無十方法 南無十法僧 南無釈迦牟尼仏 南無多宝仏 南無十方分身 釈迦牟尼仏 南無妙法蓮華經 南無文殊師利菩薩 南無普賢菩薩 釈迦牟尼仏 釈迦牟尼仏 釈迦牟尼仏 釈迦牟尼仏 釈迦牟尼仏 釈迦牟尼仏

処世界如虚空如蓮華不着水心清浄超於彼稽首礼無上尊

2. 大咒願（初夜）

大日如来 弘願広大 利益無辺 所以今者 摩訶長吏 所司大衆 練行法侶 同心合力 於此

宝殿 毎年二月 二七日夜 莊嚴此合 懸繪幡盖 焼香散花 四角燈明 昼読大乘 夜礼宝号
 六時行道 種種修福 種種修善 無量無辺 以此功德 先用廻向 梵釈四天 竜神八部 一切神
 祇 各増法楽 伽藍護法 八大明神 八幡三所 氣比氣多 二十五所 五百余所 院院勧請 当
 院護法 遠敷飯道 威光増益 行疫神等 一切明神 等滄法味 登霞聖靈 本願三所 聖武皇帝
 仁聖皇后 孝謙女帝 法印尊師 法主尊師 過去練行 一切靈等 皆成仏道 聖朝安穩 増長
 宝寿 太上天皇 御願円満 国母儲君 親王諸王 左右殿下 大中納言 八座公卿 文武百官
 一一善願 如意満足 伽藍長吏 増長福寿 所司大衆 各願円満 南無教主 釈迦如来 牟尼世
 尊 常住界会 観音薩埵 一切三宝 同心加護 同心擁護 練行法侶 消除不祥 除却不祥 除
 却災禍 内外心中 一一誓願 皆悉満足 日日施主 消除不祥 一一善願 如意満足 集衆衆人
 各願円満 伽藍安穩 興隆仏法 天下泰安 風雨順時 五穀成就 万民快樂 余分功德 三有法
 界 其中衆生 等出苦患 成無上道

IV 旋律構成について

1. 法華懺法 頭が特徴のある旋律で(一)心敬礼を29回となえるが、最終の2回すなわち「59」「60」はe e e fis fisとなっているが、あとは全部e h d e eの音を同じリズムでとなえている。繰返しが多いことと、平易な旋律のため印象に残る。これに対する側の旋律はh e fisを使用し、て音域も完全5度の域をいはず、比較的早口でとなえられるが、格別の旋律とも考えられない。

「4」から「12」に至る部分は幾分速度を落とし、力強くとなえる。なお旋律譜のない字だけの早口で棒読みにされるので殆どききとれない。「65」から「99」又「70」～「75」は部分リズム旋律の上から単純ではあるがおもしろい。構成音はh e fisの3音で、前述のものに比べるとdが欠如していることにより、清浄、空虚透明の入りまじった興味深い感じを与えるのかも知れない。しかも「74」～「75」にかけてのリズムの細分、Tempoの追上げは実に見事である。この長大なものを、同じ旋律構成の徹底した繰返しによって処理しているが、注目に価する。これにつづく錫杖普賢讃は省略する。

2. 大咒願 「79」～「160」に至る譜は14日にわたる初夜の大咒願である。基本の型は「79」～「80」によって完全に言いつくされている。全体の音域は完全5度h～fisに限られ、音の動きも基本型を著しく変えることはない。あえて特徴をいえば各句の終止が「79」の後半に示すようにh cis h cis hの2音により構成されていることである。法華懺法も大咒願も修二会の声明の中では最も動きの少ないものと言えよう。しかし乍ら各々その独特のリズム、動きによりその性格を鮮明に打ち出し、強い説得力をもっているようにおもわれる。

V あとがき

二月堂声明の録音をはじめて8年にもなりながら、その巨大な構成、変化の複雑さに驚かされ、年毎に真の姿が遠のいていくような焦燥感にかられる。錫杖一つ取りあげても、法華懺法、半夜、晨朝、あるいは寺役の場合と夫々に異なる表現様式をもつ。このことは如来唄、散華、悔過、宝号等についても同様のことがいえる。近年修二会に対し、信者は勿論、学者、音楽家、一

般の方の関心は異状なかたまりを示している。しかし寒気厳しい3月上旬2週間もの間、夜を徹しての行法、あるいは研究に要する資料の入手困難、信仰等に伴う録音、撮影の制限等により、単なる関心のみにとどまる場合が多いように思う。先年は写真集、修中日記、本年はレコードも一般の手に入ると耳にしているが、非常に意義のあることと思っている。最高に恵まれたこの奈良の土地に住み乍らなおほど遠いこの道程を、これからの研究者はたとえ遠隔の人でも今少し容易にその本質にとりくめるようになったらこれ以上の喜びはないと思う。その意味においてもこのささやかな研究をいずれはまとめあげお役にたてばと願っている。

付記 本稿をまとめるにあたり東大寺執事長清水公照師、狭川宗玄師、筒井寛秀師、鷲尾晋隆師、橋本聖円師、その他の方々に多くの御厚意御教示をいただいたことを厚くお礼申し上げます。なお本年は行法期間中東洋音楽学会（関西支部例会）が奈良教育大学で行なわれ、引きつづき修二会、十三日目の見学を夜を徹して行ったため、東大寺当局に格別のご迷惑をおかけしたことを心からおわび申し上げ重ねてお礼申し上げます。

（1971年6月4日受理）

ON THE SHŌMYŌ RECITED AT THE
NIGATSUDŌ HALL OF THE TŌDAIJI TEMPLE (VIII)

(continued from the preceeding issue)

With Special Reference To Hokke-senbō and Daishugan

Eizō Makino

Department of Music, Nara University of Education, Nara, Japan

During the Shunie period extending over a fortnight, Hokkesenbō is recited after Hanya on each of the four consecutive days, from the 1st day down to the 4th, in the former part of the whole function, and in the latter part there of the same thing is also recited after Hanya on the four days, from the 8th day down to the 11th; Hokke-senbō is thus recited 8 times all told.

To each of these occasions are allotted 3 members nominated out of the following 5, namely, Kitashū-no-ichi, Minamishū-no-ichi, Kitashū-no-ni, Minamishū-no-ni, and Chūdō. And, one of these three priests acting as leader, this group goes to confession by virtue of Hokekyō (the Sutra of the Lotus). Daishugan is recited at Shoya in exactly the same words as at Goya but in a different melody. The melody of Daishugan introduced here is that of Daishugan recited at Shoya. Both Hokkesenbō and Daishugan are Shōmyō (pl.) rather monotonous and plain but are noteworthy in that they have their own forms of expression.

VI 旋律譜 I 法華懺法

[illegible]

11 イ コウ ベイ タ イ カ
為 光 明 台 界

12 ヱ サブ ツジ ク ヲ サ ン ポウ
イ ヌ ヨウ 作 仏 三 宝

13 ヱ ヌイ ガン ガ ホン シ
唯 離 我 本 師

(ここから早く、轉読する。)

14 ヱ ヌイ ガン ガ ホン シ
唯 離 我 本 師

15 ヱ ヌイ ガン ガ ホン シ
唯 離 我 本 師

16 ヱ ヌイ ガン ガ ホン シ
唯 離 我 本 師

17 ヱ ヌイ ガン ガ ホン シ
唯 離 我 本 師

18 シンケイ礼 カヲタホウフー シンケイ礼
一心 敬 過 去 多 宝 仙 一 心 敬 禮

19 シボフンシンセイキヤボチフー シンケイ礼
十 方 分 身 尺 迦 牟 尼 佛 一 心 敬 禮

20 トウホウゼンクワフシンホウハカイスセ切諸仙
東 方 無 量 壽 佛 東 方 法 界 一 切 諸 仙

21 シンケイ礼 トウダンボウムユウトクフシントウダン
一 心 敬 禮 東 南 無 量 壽 佛 東 南

22 ハカイスセ切諸仙 シンケイ礼
法 界 一 切 諸 仙 一 心 敬 禮

23 ダンボウセンタンクワフシンダンボウハカイスセ切諸仙
南 方 極 樂 佛 仙 東 南 方 法 界 一 切 諸 仙

24 シンケイ礼 セイダンボウホウセイフシンセイダンボウ
一 心 敬 禮 西 南 方 寶 勝 佛 仙 西 南 方

25 ハカイスセ切諸仙 シンケイ礼
法 界 一 切 諸 仙 一 心 敬 禮

26 セイボウフリョウベイフシンセイホウハカイスセ切諸仙
西 方 無 量 明 佛 東 西 方 法 界 一 切 諸 仙

27 シンケイ礼 セイボウボウカホウシンホウボウハ
一 心 敬 禮 西 方 無 量 佛 仙 東 方 法

28 カイスセ切諸仙 シンケイ礼 トク
警 一 切 諸 仙 一 心 敬 禮 北 方 相 德

29 シンホウハカイスセ切諸仙 シンケイ礼
盡 北 方 法 界 一 切 諸 仙 一 心 敬 禮

30 トウホウボウサンショウコウフシンホウハカイスセ切
東 北 方 三 尊 行 仙 東 北 方 法 界 一 切

31 ショフーシンケイ礼 ショウボウキョウショウトクフシン
諸 仙 一 心 敬 禮 上 上 方 廣 衆 佛 仙 盡

32 ショウボウハカイスセ切諸仙 シンケイ礼
上 方 法 界 一 切 諸 仙 一 心 敬 禮

33 カホウベイトクフシンカホウハカイスセ切諸仙
下 方 明 德 佛 仙 東 方 法 界 一 切 諸 仙

34 シンケイ礼 オウコライキンサンセイショフヒテフ
一 心 敬 禮 往 古 來 今 三 世 諸 佛 十 仙

35 センケンロウセンフー シンケイ礼
世 尊 變 劫 千 佛 一 心 敬 禮

36 ハカイスセ切諸仙 シンケイ礼
法 界 一 切 諸 仙 一 心 敬 禮

37 ツウチショウフショウリクオウシフツウイセ切諸仙
通 智 勝 佛 十 六 六 王 子 十 佛 一 切 諸 仙

48 一 心 敬 ケ イ レ タ イ シ ョウ ヒョウ ハ レン カ ケ イ シン ホ ウ イ
V
49 セ ソン ケ イ シ ョウ シ フ ケ イ シン セ イ ハ ッ ポウ 一
切 斷 經 十二 二 部 經 眞 淨 法 寶
V
50 シン ケ イ レ フン ジ シ リ ホ サ ビ ロク ホ サ
一 心 敬 文 殊 師 利 菩 薩 弥 勒 菩 薩
一 心 敬
51 ヤク オウ ホ サ ヤク ショウ ホ サ カン セ イン ホ サ フ シン
憂 王 薩 婆 上 菩 薩 觀 世 音 菩 薩 無 尽
52 ニ ホ サ カ トク ホ サ ショウ セ イ シン ホ サ トク タイ セ イ
二 菩 薩 花 徳 薩 婆 常 樂 變 薩 婆 大 勢
53 ホ サ タイ ライ ク セ 脱 薩 婆 智 積 薩 婆 王 花 菩
菩 薩 持 地 薩 婆 勇 施 菩 薩 一
54 サ 隆 持 地 薩 婆 勇 施 菩 薩 摩 訶 薩
V
55 シン ケ イ レ ハ カ ケ イ チ ヲウ カ ホ ウ ト コ ウ ト ウ
一 心 敬 法 華 經 中 下 万 土 行 等 無
V
56 リョウ フ ヘン ア ソウ ギ バ カ カ サ
量 無 辺 阿 僧 祇 巴 伽 薩
一
57 シン ケ イ レ シン ケ イ セ ショウ 眞 大 地 菩 薩
一 心 敬 十 方 一 切 諸 尊 大 地 菩 薩

38 V
シン ケ イ レ 礼
一心 歌
シ カ ヲ シ バ ン 万 儀 威 音 王 仙 二
オンオウフ シ
39 V
セン イ ク イ シ ン サ イ ト ウ オ ウ フ 一
千 儀 雲 自 在 燈 王 一 心 歌 礼
40 V
キ ヲ シ ツ ガ ツ セ イ ベ イ ト ク フ イ ン ラ イ イ ン シ ョ オ ウ カ
満 去 日 月 淨 明 憶 仏 雲 階 音 宿 王 華
41 V
チ フ ト ウ イ セ シ ョ フ 一 シ ケ イ レ 礼
智 仏 等 一 切 縁 仏 一 心 歌
42 V
ハ カ ケ イ チ ヌ ウ ガ ン サ イ セ イ カ シ ョ オ ウ チ フ ホ イ ト ク
法 華 經 中 現 在 淨 華 宿 王 智 仏 宝 威 德
43 V
シ ョ オ ウ フ ト ウ イ セ ゲ ン サ イ シ ョ フ 一 シ ン
上 王 仏 等 一 切 現 在 歸 仏 一 心
44 V
ケ イ レ ハ カ ケ イ チ ヌ ビ ラ イ カ コ ウ フ グ ソ ク
歌 礼 法 華 經 中 來 華 光 仏 眞 足
45 V
セン バ ン コ ウ シ ョ シ ョ ガ ン フ ト ウ イ セ ビ ラ イ シ ョ フ 一
千 万 光 相 莊 嚴 仏 等 一 切 來 歸 仏
46 V
シ ン ケ イ レ シ ホ ウ セ カ イ シ ョ リ ソ ン ソ ウ シ
一心 歌 十 方 世 界 舍 利 尊 像 变
47 V
チ イ ヒ ヲ ト ク タ 多 多 多 ホ ウ シ ョ ラ イ セ ン シ ン ホ ウ ト ウ 一
提 妙 燄 宝 如 來 全 身 寶 至 疼

[illegible][illegible]

58 セイブンエンカクトクトウケケイカケイホサバカサ
 戸 閨 縁 實 得 達 賢 ン セ イ ソウ 一
 V

59 シンケイ礼イレ礼イレ礼イレ礼イレ礼イレ礼イレ
 一 心 歌 一 心 歌 一 心 歌 一 心 歌 一 心 歌 一 心 歌
 V

60 シンケイ礼イレ礼イレ礼イレ礼イレ礼イレ礼イレ
 一 心 歌 一 心 歌 一 心 歌 一 心 歌 一 心 歌 一 心 歌
 V

61 イハカイ界衆生断ヲサニ
 一 心 歌 一 心 歌 一 心 歌 一 心 歌 一 心 歌 一 心 歌
 V

62 イハカイ界衆生断ヲサニ
 一 心 歌 一 心 歌 一 心 歌 一 心 歌 一 心 歌 一 心 歌
 V

[illegible]

(以上六行も早く繰読みする。)

63

イ レ サ 一 ン ポ ウ 宝
 テ イ シ テ イ サ 三
 テ イ シ テ イ サ 三

我 衆 至 心 勤 願 已 礼 三 宝 我 衆 至 心 題 向 已
 礼 三 宝 我 衆 至 心 修 行 干 地

64

シ ョウ ジョウ ラ 一 ク
 ショウ ジョウ ラ 一 ク
 ショウ ジョウ ラ 一 ク

ハツ ケン イ レ サ 三
 先 願 已 礼 三
 先 願 已 礼 三

頭

我 衆 至 心 勤 願 已 礼 三 宝 我 衆 至 心 題 向 已
 礼 三 宝 我 衆 至 心 修 行 干 地

79
ダイジツ 日 如 来
80
コガク 弘 毅
81
リエキ 利 益
82
ソイキン 所 以 今 者
83
ソシタ 所 司 大
84
シコウ 施 行
85
コウリョク 合 力 於 此
86
バイネン 毎 年 二 月
87
ヤ 夜
88
タ 台
89
ガイセキ 蓋 磔
90
トオ 燭
91
イシン 伊 申 乘
92
ホク 佛 室
93
シヨク 施 種
94
シヨク 施 種
95
フ 無
96
イシ 以 此
97
カ 願
98
シ 四
99
ポ 部
100
ハ 八
101
シ 神
102
リョウ 龍
103
ハ 八
104
ハ 八
105
ハ 八
106
ハ 八
107
ハ 八
108
ハ 八
109
ハ 八
110
ハ 八
111
ハ 八
112
ハ 八
113
ハ 八
114
ハ 八
115
ハ 八
116
ハ 八
117
ハ 八
118
ハ 八
119
ハ 八
120
ハ 八
121
ハ 八
122
ハ 八
123
ハ 八
124
ハ 八
125
ハ 八
126
ハ 八
127
ハ 八
128
ハ 八
129
ハ 八
130
ハ 八
131
ハ 八
132
ハ 八
133
ハ 八
134
ハ 八
135
ハ 八
136
ハ 八
137
ハ 八
138
ハ 八
139
ハ 八
140
ハ 八
141
ハ 八
142
ハ 八
143
ハ 八
144
ハ 八
145
ハ 八
146
ハ 八
147
ハ 八
148
ハ 八
149
ハ 八
150
ハ 八
151
ハ 八
152
ハ 八
153
ハ 八
154
ハ 八
155
ハ 八
156
ハ 八
157
ハ 八
158
ハ 八
159
ハ 八
160
ハ 八
161
ハ 八
162
ハ 八
163
ハ 八
164
ハ 八
165
ハ 八
166
ハ 八
167
ハ 八
168
ハ 八
169
ハ 八
170
ハ 八
171
ハ 八
172
ハ 八
173
ハ 八
174
ハ 八
175
ハ 八
176
ハ 八
177
ハ 八
178
ハ 八
179
ハ 八
180
ハ 八
181
ハ 八
182
ハ 八
183
ハ 八
184
ハ 八
185
ハ 八
186
ハ 八
187
ハ 八
188
ハ 八
189
ハ 八
190
ハ 八
191
ハ 八
192
ハ 八
193
ハ 八
194
ハ 八
195
ハ 八
196
ハ 八
197
ハ 八
198
ハ 八
199
ハ 八
200
ハ 八

99 イッセーイン神 一
100 カクソウホウリョウキヤラン コウホウ
名増法染如監護法
101 ハツカイメーミン神
八天明神
102 ハッパサンソンケヒキヲ
ハ幡三所気比氣
103 ター多 シンシウゴウニソ
二五所
104 ズオハクヨ余 ソン所
五百餘所
105 インニンケンセツイオンコ
院動議院護
106 エンフーハントオ
工漢敷飯道
107 イイコウエキ
威光増益行
108 エキシン トロー
役神等

129 ソウ チョウ 長 宝 所 司 大 司 教

130 タ イ ショウ テン コウ ギョウ 額 円 各 額 無 教

131 タ イ ショウ テン コウ ギョウ 額 円 各 額 無 教

132 タ イ ショウ テン コウ ギョウ 額 円 各 額 無 教

133 タ イ ショウ テン コウ ギョウ 額 円 各 額 無 教

134 タ イ ショウ テン コウ ギョウ 額 円 各 額 無 教

135 タ イ ショウ テン コウ ギョウ 額 円 各 額 無 教

136 タ イ ショウ テン コウ ギョウ 額 円 各 額 無 教

137 タ イ ショウ テン コウ ギョウ 額 円 各 額 無 教

138 タ イ ショウ テン コウ ギョウ 額 円 各 額 無 教

129 ソウ チョウ 長 宝 所 司 大 司 教

120 タ イ ショウ テン コウ ギョウ 額 円 各 額 無 教

121 タ イ ショウ テン コウ ギョウ 額 円 各 額 無 教

122 タ イ ショウ テン コウ ギョウ 額 円 各 額 無 教

123 タ イ ショウ テン コウ ギョウ 額 円 各 額 無 教

124 タ イ ショウ テン コウ ギョウ 額 円 各 額 無 教

125 タ イ ショウ テン コウ ギョウ 額 円 各 額 無 教

126 タ イ ショウ テン コウ ギョウ 額 円 各 額 無 教

127 タ イ ショウ テン コウ ギョウ 額 円 各 額 無 教

128 タ イ ショウ テン コウ ギョウ 額 円 各 額 無 教

149 カク ケエー ンネン 円 満
150 キャ ラン ア ン 安 樂
151 ケ ワ リー ウ フ 仏
152 テ ン ガ 下 衆 衆
153 ー ー ン フ ウ シュ ン 時 五 穀
154 ー ー セ イ シ 號 萬 民
155 カ イ ラ ク 余 分 功 徳
156 サン ジー ウ ハ 法 衆
157 キ 中 衆 生
158 トウ シ ウ ー ー ク ー 苦
159 ー ー ン セ 成 無
160 ー ー ー ウ ー ト 濟

139 オーゴ調 レンコウ行

140 ホウヨウセウチョウフブシヤク
法侶消災除穢

141 ショウキサイカニ
除却災禍

142 ガーニシンジュイチャイ
外ニ心中イチャー

143 センガクニシハル
一聖願ニ示はる

144 ソクバツジツヒ
一速巴ツジツヒ

145 センセイシュウ
施僧衆

146 チョウフブシヤク
除穢消災除穢

147 ナンソクシュウラニシ
南無衆生來

148 パンソクシュウラニシ
滿衆生來